

# ノルウェーの学校教育（その2）

## — オスロでの小、中学校調査を踏まえて —

### On School Education in Norway (II)

#### — Based on My Visitation in Oslo —

北 川 邦 一  
KITAGAWA Kunikazu

本稿は本誌第16号（96年12月）に発表した「ノルウェーの学校教育—その概要、共通教育理念と後期中等教育制度—」の続編である。

前編執筆後、1997年9月2日（火曜）から5日（金曜）にかけて、ノルウェーの首都オスロにおいて1つの小学校、2つの中学校、2つの高等学校、2つの教育行政機関を訪問して見学、聞き取り、資料収集を行なった<sup>1)</sup>。本稿ではこの訪問で得た知見を踏まえて、主として、前編では触れることの少なかった同国の義務教育学校の状況についてまとめるものである。

高等学校教育及び教育制度・教育行政についてのまとめは、別の機会を期したい。

なお、本稿で特に注記しない事項は、訪問校での見学・聞き取り及びそこで提供された資料に基づいている。

#### （一） 義務教育と97年改革

##### （1） 義務教育の制度・教育課程と97年改革

ノルウェーでは、1969年の「基礎学校に関する法律」に代わって「教育および訓練に関する法律」（*Lov om opplæring*）<sup>2)</sup>が施行され、義務教育について1997年8月の新学年の課程から「97年改革」（*Reform 97*）が始められた。この改革は、前編で紹介した同国における全面的な教育改革の一環であり、とりわけ「94年改革」（*Reform 94*）と呼ばれる後期中等教育改革と連動するものである。

この97年改革によって、従来、義務教育は小学校（*barneskole*）6年間（7-13歳）、中学校（*ungdomsskole*）3年間（13-16歳）であったが、就学前（*forskole*、プレスクール）の1年間が義務化されて小学校に編入され、小学校が低年齢段階（*småskoletrinnet*）4年、中間段階（*mellomtrinnet*）3年の計7学年制となり、中学校の3ヶ年と合わせて

義務教育が10年となった<sup>3)</sup>。また、小学校、中学校の新教育課程が次のように導入されることとなった。

- 1997/98学年度　：第1学年/就学前  
                           第2、第5、第8学年  
 1998/99学年度　：第3、第6、第9学年  
 1999/2000学年度：第4、第7、第10学年

新教育課程の基準は、①ノルウェーにおける初等、中等および成人教育のためのCORE CURRICULUM（共通教育要綱）：一般部分、②義務教育のための原則と指針、③科目要綱（subject syllabuses）によって構成される。

新1年/プレスクール学年については、19人以上の学級には2人の教員が充てられる。また、当面、従来の小学校教員およびプレスクール教員のどちらにもこの生徒を教える資格が認められ、プレスクール教員はさらに研修を受けて低年齢段階（第1学年～第4学年）を担当する資格が認められることになる。

10年制義務教育学校は、「全ての者に同一の学校」の原則を強化するものであり、原則として全生徒は同一の課程で同一の科目を学び、科目要綱に示された教育内容は授業に対する共通の拘束力ある基礎を成すものであるとされ、新教育課程では共通の科目内容が強調されているが、同時にそれを地方的条件および個別の生徒に適合させることも可能とされている。

97年学習指導要領（“The Cullicula for the 10-year Primary and Lower Secondary School” of 1997。学校、教育行政機関において“L97”と略記される。）は、学科交流的な授業（inter-disciplinary teaching）を含む主題的授業（thematically organised teaching）を授業方法として義務づけた。又、97年学習指導要領は、プロジェクト学習（project work）を学校における授業方法として義務づけた。主題的授業によって生徒は全体的で意味に満ちた事物の性質（nature）についての教授を受ける。また、プロジェクト学習においては、生徒自身が学習課程において能動的な役割を果たし問題に基づいて具体的な結論と結果に対する基礎としての情報を獲得しなければならず、教員は監督（supervisor）としての重要な役割を果たすべきであると考えられている<sup>4)</sup>。

なお、97年9月5日、オスロでノウェー政府オスロ及びアケルシュス教育局（STATANS UTDANNINGSKONTOR I OSLO OG AKERSHUS）を訪ねた。その時の教育局長（UTDANNINGS DIREKTØR）のビヨルグ・エルスタット（Bjørge Ølstad）氏（女性）の説明によると、この教育課程改革は、①男女平等、②児童生徒のニーズに適合した教育、③子どもの能力を伸ばし得る教育という考え方を授業方法に取り入れ、プロジェクト法を重視し、第1学年の授業は一斉教授方式の授業は約25%でプロジェクト法による授業が75%、学年進行とともに教授授業の比率が増し第10学年の高等学校第3学年では教授

方式授業を約80%とする計画であるという。

## （２） 義務教育学校の科目時間配当

国の定めでは、義務教育学校における必修教科は、次のように定められている。

- キリスト教、他の宗教および道徳教育 (Christianity, other religions and moral education)
- ノルウェー語
- 算数・数学
- 公民科又は社会科 (Civics/social studies)
- 美術および工芸
- 理科および環境科目
- 英語
- 家政科
- 体育
- 追加科目

この外に、学校および生徒が選ぶ科目のための時間を加えることが可能とされている。

また、上記の「追加科目」では、①ノルウェー語、英語以外の、生徒が選ぶ言語科目、②既習のノルウェー語、英語又は身ぶり語学習を深化する科目、③実践的なプロジェクト学習、の3つのうちの1つが提供される<sup>5)</sup>。

表 I オスロ市小学校、中学校の授業時間配当

教 科	小学校段階							中学校段階		
	学 年							学 年		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
キリスト教	76	76	76	76	76	76	76	76	76	95
ノルウェー語	266	266	266	266	190	190	209	190	152	190
算数・数学	114	152	152	152	152	152	152	152	114	152
社会科	38	38	76	76	114	76	114	114	114	152
美術及び工芸	38	38	76	76	152	114	114	76	76	76
理科及び環境科目	38	38	76	38	76	76	95	114	114	114
英語	0	19	38	38	114	76	114	114	114	114
音楽	38	38	38	38	76	76	76	38	38	38
家政科	0	0	0	76	0	114	0	0	114	0
体育	76	76	76	76	76	76	114	152	76	76
選択科目	0	0	0	0	0	0	0	76	114	114
生徒評議会・学級評議会	0	0	0	0	0	0	0	38	38	19
自由活動	114	95	38	0	0	0	0	0	0	0
学校選択・生徒選択	38	38	38	38	38	38	38	0	0	0
合 計	836	874	950	950	1064	1064	1102	1140	1140	1140
週当たり授業時間単位数	22	23	25	25	28	28	29	30	30	30

(注) ※数値は45分を単位とする授業単位数を示す

オスロ市の小学校および中学校で1997/98学年度から行なわれる教育について見ると、その授業時間配当は、表Iのとおりである<sup>6)</sup>。

科目欄に挙げられている科目を見ると、「K R L」は“K R L = Religious Instruction and Ethical Education”と説明されているが、国が挙げている「キリスト教、他の宗教および道徳教育」に当たる。又、「社会科」は、国の挙げる「公民科又は社会科」に当たる。「選択科目」(Electives)と「生徒又は学級評議会」(Pupil/Class Council) および「自由活動」(Free Activities)という科目は、国ではこれらの名称は直接には挙げていない。オスロ市の上記授業時間配当は、国の定める最小限単位時間総数よりも、722単位時間多い。

### (3) 義務教育学校の父母組織、生徒組織、学校運営組織

また、公立義務教育学校においては、学校運営および生徒、父母の諸組織が設けられており、オスロ市教育長編集の文書では、次のように説明されている<sup>7)</sup>。

【父母評議会】(Foreldreråd) 各学校に設置され、その学校に通う生徒の親全員で構成される。父母評議会は、父母および保護者の共通の利益を保護することおよび父母が良い学校環境を創造することに能動的に貢献することに責任を有する。

【父母評議会運営委員会】(Foreldrearbeidsutvalg, FAU) 通常各学級の父母代表で構成され、この中から2人が学校の調整委員会委員に選ばれる。

【学級の父母代表】(父母評議会学級委員) 学級生徒の父母の中から女性1名、男性1名が選ばれる。一方で学級の父母・保護者の間で、他方で父母評議会運営委員会の間で、学級教員と父母との協同をとりもつ。学級の父母代表は、○父母—学級教員会議の企画・開催、○学校内外の環境に関する問題の討論、○学級父母への父母評議会運営委員会の活動に関する情報提供、○生徒と父母の連絡網の作成、○学級遠足の準備への参加等の役割を果たす。

【生徒評議会】(Pupiles' Council) 各中学校では生徒評議会が設けられてきたが、新教育法は、これを中間段階(第5学年～第7学年)に拡大した。初等段階のどの学校にも生徒評議会がつくられ得るようになり、通常、各学級は生徒評議会への代表を選出する。

【学級評議会】(Class Council) 各学級にその全生徒を構成員とする学級評議会が設けられる。

【調整委員会】(The Coordinating Committee) 各学校には調整委員が設置され、これは教員/プレスクール教員の代表2名、その他の職員の代表1名、父母評議会からの代表2名、生徒評議会からの代表2名から成る。校長とコミュニエ(kommune。市、町又は村)に任命された委員とがコミュニエを代表し、校長が事務を担当する。議事が守秘事項に及ぶときは、生徒代表は席を外さなければならない。調整委員会の仕事は、学校社

会の多様な当事者の接触と協同を奨励しその活動を調整することである。調整委員会は学校に関するあらゆる問題に関して見解を表明し学校の諸活動に影響を及ぼすことが認められている。しかし、給料及び労働条件並びに個人的事項に関する決定は扱ってはならない。

## （二） ルセチェルン小学校

9月3日9時、オスロ中央駅からSki行き電車で南方へ約8.5km、Holmlia駅で下車徒歩数分、Nordåvein 1, n-1251 Osloに位置するルセチェルン小学校Lusetjern skoleを訪問した。

リングスタード(Lyngstad)校長(女性)、教員のアームスグコークさん、調整委員会委員長のブッシュマンさんにインタビューに応じていただき、主として校長から説明を受け、いくつかの授業参観をした。

学校の組織構成は、次のとおりである。

生徒 (elver) 410名。

学級 (klasser) 17学級

(第1～5学年各3学級、第6学年2学級)

職員総数47名。

教員 (lærere) 42名

(校長 rektor 1名を含む)

助手 (assist) 3名

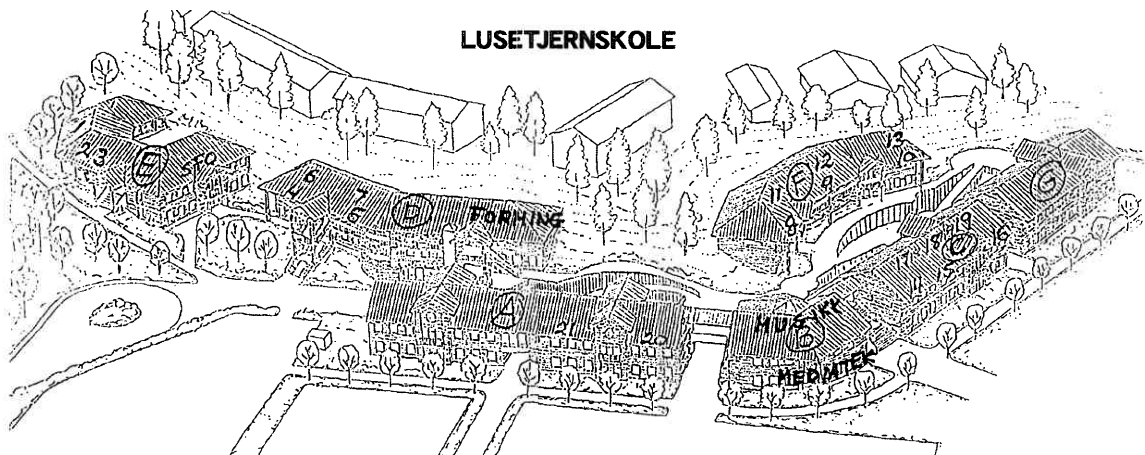
事務職員 (sekretær) 1名

用務員 (vaktmester) 1名。

1997/98学年度から小学校は7年制になっているにもかかわらずこの学校に第7学年がないのは当校が94年8月から開設されたという特殊事情によっている。すなわち、当校は隣接校の収容力不足解消のため、94/95年度に第1学年、第2学年及び第6学年で発足した。発足時の2学年は97年8月には従来の制度によれば第5学年になるところであるが、制度改革で第6学年になった。その1年上の学年は元々在校生がないのだから第7学年は欠けているのである。

図Iは校舎・教室の配置図である。校舎は、A～Gの7棟からなり、1階がワーク・ショップ用、2階が教員のdata roomその他の部屋からなるA棟以外は全て平屋で学年毎にまとまって教室が割り当てられており、各教室はそれぞれ戸外への出入口をもっている。特殊教室としては、美術室 (formingsrom)、音楽室 (musikkrom)、情報室 (mediatek) があるが、理科実験室、家庭科室がなく、体育館は外部の施設を2校で使用している。

この学校はオスロでも外国籍の生徒が最も多い方で、約4割の生徒がノルウェー語を第



97/98学度 学級配置							
E棟	D棟	A棟		B棟	F棟	C棟	
1番=1B	4番1階=	20番1階=作業場	A:5年	冬季 菜園 及び ティ ーム 会 合 室	8番1階=5A	14番1階=2A	
2番=1C	5番1階=	教員図書室	B:6年		音楽室	9番1階=5B	15番1階=2B
3番=1A	6番2階=6A	E:教員のため の情報室	C:4年		メディア室	10番1階=5C	16番1階=2C
	7番2階=6B		D:2年			11番2階=4A	17番2階=3B
	工芸室		F:3年			12番2階=4B	18番2階=3A
			G:1年			13番2階=4C	19番2階=3C

図1

2言語にしている。パキスタン、ベトナム、アラブ系の子が多く、それらの言語ができる教員が配置されて授業担当者を助けている。

教員は、各学級担任に2、3人の教員を加えた計5人又は6人の教員で学年の生徒を担当する。そのため、毎週2時間打ち合わせの時間をとっている。障害児や少数言語の子など特別の指導が必要な子も普段は普通のクラスに属する。

各生徒の能力・発達段階に沿った授業という考え方が基本にされ、一斉授業は、なるべくしないように行政でも決めており、プロジェクト、テーマを重視して授業をしており、遊びが重要な役割を果たすと考えられている。

常時勤務の教師は週当たり25時間の授業担当のほか企画・打ち合わせ・研修を5時間、合わせて30時間勤務する。この外、年間540時間自由に仕事をし（以上2つの合計では1710時間）、年間合計1770時間、勤務する。学年は39週間であり1週45時間の勤務である。

学校の管理運営に関する組織としては、「調整委員会」が設けられている。調整委員会の構成は、親代表が2名、教員2名、教員以外の職員1名、コミュニエ代表1名、校長1名の7名で構成される。この機関は、校長の助言機関であるが、98/99年度からは決定権を有することになっている。

調整委員会の委員長は、学校の職員以外から選ばれることになっており、現在はコミュニエ代表がなっている。

地方自治体代表は、議員とは別に、コミュニティー議会では会派の勢力比に応じて各種の行政分野の諸委員が任命され、そのうちの1つとして学校への委員が定められているものである。

学校には生徒の全父母で構成する「父母評議会」があり、各学級では2名の父母代表が定められ、そのうち1名がFAU（父母評議会運営委員会）に参加して毎月1回会合をしている。

調整委員会は、学校予算の増額や教員増、教育条件の整備など地方自治体に対する要求などを議題として取り上げている。

父母評議会や学校の調整委員会はもっと大局的な学校の管理運営や予算、職員増などについて校長に勧告をしたり、体育館の増改築などどちらかと言うと地方自治体に対する要求を扱っているという。

親の学校や教員に対する要求や不満は、父母評議会や調整委員会には出されず、校長に出されている、という。

見学した1つの授業は男性教員の第1学年の学級だった。生徒は3週間前、学校に入学したばかりで、10迄の数の学習で、大きな丸に色を塗ったり、「（インディアンが）一人、二人、三人来ました」の歌を歌ったりしており、数人ずつ向き合う机の配置だった。

もう一つは、女性教員の社会科の授業であった。9月14日の国会議員選挙の直前だということで国会についての勉強をしていて、首相や大蔵大臣、文部大臣など大臣の名前を挙げていた。もう一つのクラスと質問を出し合って競技をすることになっているという。授業生徒人数は21人で、机の配置は黒板に向かう一斉授業様式であったが、机の間や前後が広々とした感じであった。

### （三）ホルムリア中学校

ホルムリア中学校（Holumulia ungdomsskole）は、ルセチェルン小学校に隣接している。同校を午前10時15分頃訪問し、オース（Aas）校長（男性）及びロードジベル（女性）の応接・説明を受け、授業を見学し、生徒評議会役員生徒2人と話をした。

同校の1997/98学年度の学級・生徒数、職員数は、次のとおりである。

生徒総数 459名	
第8～10学年相当の外国語生徒受け入れ学級	11名
第8学年6学級	161名
第9学年5学級	136名
第10学年7学級	151名

（第10学年に2名の学級がある外は、同学年でも学級生徒数に若干の幅はあるが、各学級とも生徒数は23名～30名）

学校職員総数 63名

- 校長 (rector) 1名
- 副校長 (undervisningsinspektører) 2名
- ロードジベル (rådgivere) 2名
- 教員 (lærere) 51名
- 助手 (skoleassistenter) 3名
- 事務職員 (sekretærer) 2名
- 警備員 (vaktmester) 1名
- 清掃員 (renholder) 1名

上で「ロードジベル」というのは、助言 (råd) を与える人 (givere) という意味であり、ノルウェー語－英語辞典では “*adviser*” とされている。学校運営上の役割と生徒に対する助言を兼ねる職である。（(四)で後述するロフスルード校のロードジベルの仕事、参照。）

同校は、外国語を母語とする生徒が約50%である。そのため、同校は “*Holmlia school, a school that is exuberant and exiting and with a cultural diversity*” と題する「学校要覧」ないし「学園案内」に類する文書を英文で作成している。

校長とロードジベルの説明並びに上の文書によると、同校の教育は次のようである。

まず、教育の重点は次の点においている。

- 生徒に良い普通教育 (general education) を与える。
- 生徒に安全と豊かな発達を与える。
- 生徒に肯定的な自己概念 (positive self-concept) を与える。
- 生徒に他の諸文化を尊重することを教える。

外国からの生徒受け入れ学級は、外国からきたばかりの生徒16人までに1年間、社会科とノルウェー語を教える。生徒は、その後、通常学級又は他の学校に移る。

この外に3つのオルタナティブ学級があり、その生徒は通常学級と重複している。①「地域環境グループ」は通常の課程に加えて実践的な教育を行っている。②「売店営業」では、8人～12人の生徒が企画、生産、経理、販売等の売店営業の実習を12単位時間行い、後の18時間は通常の学習を行なう。③「メディア・音楽」では、「センドル・ホルムリア余暇センター」という青年クラブと協同してビデオ及び音楽の製作の一部を担っている。これには12人まで受け入れることができる。

通常の学級は、2つの学級毎にノルウェー語、数学、英語の3人の正規の教員を配置し、その3人の教員がその学級・生徒について密接に協同して教えている。授業運営においては、いくつかの科目について、「キャスリング・モデル」(ノルウェー語では *rokeringsmodell* 8)、すなわち、2学級を合わせて3つのグループに分け、各科目の教員はその3つのグループ全部の授業を持つという方法を採用している。



また、5人の特別教員、副校長及びロードジベルで協同して特別教育を行なっている。例えば、8週間で4つの数学の基本演算を習得させるために目標を立て、生徒と父母が契約にサインをする。その間、生徒は他の科目のいくつかの授業から離れるというやり方である。

図書室は、97/98年度から週に30時間開け、生徒への貸出、プロジェクト授業、図書指導、教材収集、インターネットなどを行なう。

全生徒はワープロとスプレッド・シートの教育を受けている。選択教科及び補助授業で情報を行なっており、インターネットに学校のホーム・ページを有している。

当校はプロジェクト教育を何年もやってきた。秋の間は「私たちの街」というプロジェクト教育をやり、春には「オープン・イブニング」に至るプロジェクトを行なった。後者では、第10学年生が様々な国の紹介、フォーク・ダンス、民族衣装、民族の食事や展示を行ない、8年生と9年生は校庭でフォークダンスや木工作品の展示やいろいろな種類の催しをし、両親や近所の人たちを招いたという。

正規の全教員は毎週1授業の間に生徒と会話をしなければならないことにしている。また、何人かの生徒向けには生徒の興味を惹く話題を扱う2人の青年をリーダーとする「会話グループ」を作っている。

また、当校はブリュッセルから資金を得ての「コメニウス計画」の取り組みや他文化の父親グループの取り組み、水泳の経験のない他文化女子生徒の水泳コースなどもしている。

見学した授業は、どの授業も落ち着いたなごやかな状態で行なわれていた。

見学した数学の授業は、上記の「キャスリング・モデル」の一つの適用なのであろうか、担当する2学級生徒を進度別に3つのグループに分けて教えていたが、どうやら進度別に3分した一番遅れているグループのようで、第8学年（13歳生徒）であるにもかかわらず、 $26+58$  等の計算練習をしていた。

なお、その教科書に示されていた計算手順は次のように図式化するものであった。

$$\begin{aligned} 26+58 &= (26-2) + (58+2) \\ &= 24 + 60 \\ &= (20+60) + 4 \\ &= 84 \end{aligned}$$

高等学校への進学について、校長とロードジベルに質問した。特に大きな問題はなく、大半の生徒は中学校での助言を受けて概ね本人が納得し志望する高校の学科に進学することができている、また、受け入れ高校の方でもそれなりの対応をしている、敢えていうと、職業的学科と結びついた見習い養成所が、中学校側の希望に比べて少ない、産業界の人材要求というよりも教育的に見て見習い養成所が不足している、ということであった。

生徒とのインタビューには、どちらも第10学年で現在学校の生徒評議会役員をしている

## 北川 邦一：ノルウェーの学校教育（その2）

ウェルヴィン君と生徒評議会役員を経験したことがあるゴクソエル君が応じてくれた。ウェルヴィン君は、オスロ市の「青年評議会」の役員もしている。物おじしない落ち着いた態度の子たちで、次のように話してくれた。青年評議会は、オスロ市の各学校の生徒評議会代表50%とオスロ市内の青年クラブの代表合わせて59人で構成しており、年に2回会議をする。25人の運営委員会を選んで多いときには3週～6週に1度の割合で会合をもっている。

この委員会の主導で、①労働環境法で労働条件が定められているが、それに相応する生徒の法律の草案を作っている。そのため学校の学習条件を定めようとしている。また、②いじめやをどうやってとめるか、児童家庭省と相談して方針書作成のため審議をしている。また、学校の生徒に、いじめや喧嘩等の紛争調停の方法を教える講座を開いている。「街で武器を持たないようにしよう」というキャンペーンのためTシャツを売ったりしている。

#### （四） ロフスルード中学校

ロフスルード中学校（Lofsrud ungdomsskole）は、オスロ中央駅の南南東約8 km、Lofsrudhøgda 210, N-1281 にあり、ホルムリア中学校の北東約3 kmに位置する。この学校を9月4日正午過ぎに訪ねた。

97年9月3日現在、生徒は521名、学級数19、第8学年はA～Gの7学級、第9、10学年は各々A～Eの6学級、各学級の生徒数は厳密に均等ではないが各々24人～30人、職員は教員53名と他11名合わせて計64名の学校である。

校長室で、ビェルトネス（Bjertnes）校長(女性)から同中学校の教育の概要について、メーブリ・サンダソン社会問題担当教員兼ロードジベルから生活指導のやり方について、ヨースンド進学問題担当ロードジベルから進路指導について、それぞれ主として説明を受けた。その後、コード・ロシュラン副校長(男性)の案内で施設及び授業を見学した。授業見学の後、学校の調整委員会委員であり父母評議会委員長であるトーレ・レーニンさんの来校時刻を見計らって校長室に戻り、彼から父母評議会の活動について説明を受けた。

以下、概ねこの順で見聞をまとめるが、校長と両ロードジベルからは説明に際してその内容に関する文書（いずれもノルウェー語）の提供を得た。限られた時間での説明よりも明確な部分もあるので、以下では、適宜それらの邦訳を示して見聞・質疑内容を補足する。

##### （1） 学校運営の概要

同校の教育の概要については、校長から説明を受けたが、その際、「学校運営の概要」（ノルウェー語。A 3判3頁）と題する文書を提供してもらった。これは、同校1996/97学年度についてのものであるが、97/98学年度は97年8月下旬から始まったばかりであっ

たから当時から見て最新の状況を述べたものである。まず、その全文の訳出によって学校の概況を示す。なお、1997/98学年度からは、義務制就学が1年早まり、同中学校には第8学年=13歳から第10学年=15歳の生徒が在学している。

### ロフスルード中学校 1996/97学年度

#### 学校運営の概要

#### *Oversikt over driften ved skolen*

ロフスルード校は、18学級、各学年6学級で生徒は合計479名、その中に26ヶ国からの138名の少数言語（ノルウェー語以外一訳注）の生徒がいる。

教員は50名、他に職員10名がいる。

#### 【授業組織】

第8学年と第9学年では、授業はABCとDEFの2つのチームに分けて行なわれる。ノルウェー語、数学及び英語の授業は、それぞれの科目について援助グループとT-timeグループ（テーマ学習グループ）があるように3クラスずつ同じように設定されている。第二言語としてのノルウェー語は、ノルウェー語と同じように設けられている。第7学年では、97/98年度は2学級ずつでチームを作るという試行をしている。これらの2学級に、1人の数学教員、1人のノルウェー語と英語の教員がつく。後者は社会科、理科及びキリスト教も教える。T-timeグループがノルウェー語、英語及び数学の時間と同様に設けられている。

この学年は1つの「キャスリング・モデル」（前出。原語rokeringsmodell）を持っており、この2学級が、ノルウェー語、英語及び数学の時間には週に2回、3つのグループに分けられる。このチーム・モデルは、1月ないし2月に評価されことになっている。

学校は、97年指導要領に向かう状況下でよい組織のあり方を考えてさらに仕事をすすめなければならない。

#### 【少数言語の生徒の授業】

当校は3つの学年全部に外国語としてのノルウェー語を設けている。また、語彙が少なく、学習上の問題の理由で科目に困難を有している少数言語の生徒に対しては、通常のクラスに通うが、特に少ないグループでノルウェー語、英語、数学、社会科及び理科の授業を受けるようにしており、そのような生徒は教員の厚いフォローアップを受ける。

#### 【小学校から中学校への移行】

ロードジベルは、小学校の教員から生徒の情報を入手する。ロードジベルは、我々

## 北川 邦一：ノルウェーの学校教育（その2）

及びロフスルード校の関係者の父母評議会に出席する。彼らは又、小学校の学級訪問も行なう。小学校の学級は、5月又は6月にロフスルード校を訪問する。ロードジベルは、全ての情報が集められた後で新しい学級を一緒に設定する。

## 【特別授業】

## 生徒企業

特別授業として当校は、生徒企業を設けている。これは、実践の中での多く学ぶ必要のある生徒に対する企業である。生徒は週当たり4時間、この科目を受ける。企業では、生徒は食べ物を作り、売り、計算をする。

## 選択科目・売店

学校は、8、9学年に売店の選択科目を提供している。生徒は売られる食品を大変自由に作る。

生徒は、毎日、大変自由に乳製品やジュースを買うこともできる。

## 活動日

学校は年に4日の活動日を持っている。秋に1日・自由スポーツ又は遠足日、2月に1日・冬季活動日、初夏に遠足、フットボール試合旅行などのための2日である。

## 新年ダンス会・第7学年祭日

第9学年には新年ダンス会がある。第7学年には秋に「大親睦会（en stor 《blijent med hverandre fest》。大「相互に知られ合う祭」）がある。

タレント祭典（*Talentiade*）

わが校では、全生徒に対して年に一度、《タレント祭典》も行なう。生徒たちは、着飾って互いに見せ合う。私たちは、多様な学級の中の最善の要素を選ぶ。

## アルコール・ドラッグ授業

第8学年には、青年期と酔いをめぐって学級で継続的な授業を伴う若者コースがある。第8学年は、その関連の中で大きな生徒評議会又は父母評議会に組織される。

## 朝の集会

学校は、各年、何回か朝の集会を行なう。ここで生徒は互いに選び合う。スポーツで、あるいは他の方法で優れたことを示した生徒は表彰される。

## 大変自由な活動

しばしば、音楽が大変自由に演奏され、生徒委員会は校外で演奏する。

## 5月17日（訳注：憲法記念日）

父母評議会運営委員会は、生徒のために特別朝食を伴う協同行事を組織する。

## 【父母の活動】

ロフスルード校では、学校と家庭の間によい協同がある。毎秋、学校の全学級のための大父母評議会があり、その後、各学級で会合がある。さらに、各学級はクリスマス

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第18号（1998年）

その後で父母評議会をもつ。教員は年に2回、父母と相談時間をもつ。

第9学年に対しては、毎年1月に生徒とその保護者に対して高等学校に関する会合がある。

学校のFAU（父母評議会運営委員会）は、大変積極的で活動的である。

### 【情報教育】

学校は2単位時間の情報の選択科目を提供している。この学校は、5つのこのような選択グループを有しており、つまり、約80人の生徒をカバーしている。

第8学年向けには今年、全8年生に対して文書処理コースを設けた。学校の教員は多くの情報訓練を必要としている。

## （2）学校の年度計画

また、校長から「ロフスルード校 1997年の活動計画 目標：成長における知識と充実」(*VIRKSOMHETSPLAN VISJON KUNNSKAP OG TRIVSEL I VEKST*)と題する、表紙を含めてA4判8頁の同校の教育計画文書の提供を得た。

この作成手続きは、各学年から1人ずつ計3人で計画作成に責任を負う教員集団をつくり、一般の教員の意見を踏まえて提案を校長に出す。校長は原案を作成し、同校に2つある教員の労働組合の代表との協議を経て、父母評議会運営委員会に提案し、調整委員会に諮って定めたという。

この学校の調整委員会は、校長、教員代表2名、他の職員代表1名、生徒代表1名、親代表1名の合計6名で構成されている。なお、97年9月時点では、学校運営の法的決定権は校長にあり、調整委員会は助言的機関とされている。

また、労働組合のうちの一つは大学の教員なども入っている組合で全国的な連合体を形成しており労働党との関係が深い組合であり、もう一つは主に産業労働者が入っている独立的な組合である。

さて、上記「活動計画」は、5つの「努力領域」(Innsatsområde)から成り、各努力領域毎に一つないし複数の「主要目標」(Hovedmål)が掲げられ、この目標毎に、概ね数個の得べき「結果目標」(Resultatmål)、それを実現するための「手段」(Tiltak)、その責任者、期限が書き込まれている。このような学校の計画・目標・手段の作成の様式は、オスロ市の学校に共通と推定される。

次に、これに挙げられている5つの努力領域、主要目標・その結果目標を例示する。

1997年 活動計画 ロフスルード中学校

目標 成長における知識と充実

*VIRKSOMHETSPLAN 1997 LOFSRUD SKOLE*

北川 邦一：ノルウェーの学校教育（その2）

## VISJON KUNNSKAP OG TRIVSEL I VEKST

（抄）

### 5つの努力領域

- ①97年学習指導要領（L.97）
- ②適応的教育、包摂的学校（Tilpasset undervisning, en inkluderende skole）
- ③学校に基礎をおいた評価・職員研修（Skolebasert vurdering / kollegaveiledning）  
（注：直訳すれば「同僚職員指導」）
- ④収容能力の整備（Tilrettelgging av kapasitet）
- ⑤父母の協同（Foreldresamarbeid）

（以上の番号は後の便宜上、○番号に変えた。）

【主要目標】学校は生徒用図書室をよく発展させること（上記努力領域①）

＜結果目標＞生徒は自分の勉学で参考文献を使用できるようになること。

〔手段〕より多くの参考文献、新聞、辞書の買い入れ。責任者、校長。期限、12月。

〔手段〕図書室用パソコンの取り替え。CD-ROM辞書の導入。

＜結果目標＞図書室が時間を定めて開かれるべきこと。

〔手段〕図書室に人を配置する時間を定める。責任者、校長。期限、6月。

＜結果目標＞素材文書の発展

〔手段〕最新の新聞をファイルすること。責任者、図書担当。期限、12月。

〔手段〕学科に沿ったビデオ収集、視聴覚室への設置。責任者、視聴覚室担当。期限、6月。

【主要目標】97年学習指導要領の原則と方針に沿った学業をおこなうこと（努力領域①）

＜結果目標＞全学校はプロジェクトを伴う学業を行なうべきこと。

〔手段〕それぞれの学級段階に一つのプロジェクト。責任者、全員。期限、4月。

〔手段〕それぞれの学級段階に一つの環境教育プロジェクト。責任者、全員。期限、8月。

【主要目標】生徒は教科学習で実用的道具として情報機械を使用できること。

＜結果目標＞生徒は文書取扱いを習得すること。

〔手段〕第8学年生は、97年春又は97年秋に文書扱いを伴う学習を少なくとも一つ行なわなければならない。責任者、第8学年教員。期限、12月。

〔手段〕第8学年生は文書処理課程を履修する。責任者、校長・教員。期限、12

月。

<結果目標> 教員は情報の訓練を受けなければならない。

[手段] 教員・情報責任者に対するインターネット及び他のプログラムの課程。  
責任者、校長。期限、12月。

【主要目標】 職員指導と学校に基礎をおいた評価を通じて教育の準備をし開発をすること。（努力領域③）

<結果目標> 準備と問題解決のために互いに助言をすること。

[手段] 必要に応じて学年で職員研修（同僚指導）を行なうこと。責任者、学年主任。期限、12月。

<結果目標> 学校は、プロジェクト授業の発展を追求すること。

[手段] プロジェクトと結びついた評価がなされなければならない。責任者、校長・全員。期限4月～8月。

### （3） ロードジベル（rådgivere）

先の文書中にも出ている「ロードジベル」（“rådgivere”）は、ホルムリア中学校にも2名置かれていたが、ノルウェーの中学校で学校運営上重要な役割を果たす職種である。ロフスルード中学校には2名配置されており、うち1名は進路問題担当(男性)、もう1人(女性)は“*sosial-lærerne*”と兼任であった。両中学校の職員人数表では一般の教員と区別して示されているが、ロードジベルは授業も何時間か持つということであった。

“*sosial-lærerne*”というのは、教科教育ではなく生活指導上の問題で生徒を指導する教員であって、「生活指導教員」とでも訳するのが適切な職務であり、各学校に1名は配置されているという。

次に訳出するのは、この生活指導教員兼務のロードジベルであるサンダソンさんから提供してもらった彼女の職務課題の一覧である。

#### ロフスルード校における生活指導教員兼ロードジベルの課題

#### SOSIAL-LÆRERNES/RÅDGIVERNES OPPGAVER VED LOFSRUD SKOLE

##### 1. 科目間の会議の召集と参加

会議の記録

会議で合意されたことのフォローアップ

##### 2. 父母評議会・報告会議及び学校の必要事項が見つけれられるようなチーム会議への参加

3. 学級運営に伴う審議事項における家庭との交渉（Kontakt）
4. 社会的・医学的研究者、教授学的・心理学的機関、児童保護、社会福祉事務所、余暇クラブ、警察及び精神病対応機関との協同
5. 勉学上の又は社会的な特別の保護を要する生徒（障害児ではない。）のフォロー・アップ
6. 生徒の援助・支援事業の実行及び維持継続に対する協同責任
7. 学校内外におけるオルタナティブ授業の設定と維持継続
8. 選択科目時間の設定。選択科目としての労働生活学習。選択科目教員との交渉（Kontakt）。全生徒及び保護者に対する履修指導（Orientering）。
9. 小学校・中学校間の移行（Overgang）。小学校との協同（訳注：この中学校へは、3つの小学校からの生徒が進学してくる）。
10. 中学校・高等学校間の移行。高等学校との協同。

#### （4）高等学校への進学指導

また、高等学校進学担当ロードジベルのヨースンドさんから中学校卒業後の制度について説明を受けた。これに関しては、概ね拙稿前編に示したとおりであり、高等学校は大きく13の基礎コース(学科)に分かれており、この内、3つは高等教育に進学するコースで3年制、残りの10のコースは職業資格取得をめざすものであり、就学年限は4年でありこの間に職業見習い実習も行なう。94年教育改革で生徒は義務教育修了後3年間の高校教育(障害者は5年間)を受ける権利が保障されている。

彼からは、さらに進学指導の概要について説明を受けた。その際、提供された高等学校への進学指導計画を次に訳出して示す。

#### 基礎学校から高等学校への進学に関するロードジベルの業務計画 FRAMDRIFTSPLAN FOR RÅDGIVER VEDR. OVERGANG GRUNNSKOLE/VIDEREGÅENDE SKOLE

1. 第9学年の学級チーム主任、第9学年の父母評議会、及び第9学年の全学級に業務計画を示す。（9月）
2. ロードジベルは、全生徒と対話をする（2人ずつ）。（9月、10月、11月）
3. ロードジベルは、全学級に行き、冊子「様々な教育」を配布し、生徒にその特徴及び要点に関する情報の活用法、94年教育改革及び進学申込書類記入法（3課程希望、2校）に関して教える。（9月、10月）
4. ロードジベルは、全学級に行き、冊子「オスロの高等学校の情報」を配布し、ど



- んな可能性があるかについて少し話す。（11月、12月）
5. ロードジベルは、生徒及び可能ならその保護者と新たな対話をする。（12月、1月）
  6. 大集会（保護者たち及び生徒たち）。ソグン、ノルトストランド、ランベルセテル、マングレルド及びウルスルド各校の教員が生徒及び保護者に自分の学校について説明する。（1月末）
  7. 5、6、と並行して、私たちが援助することが必要な生徒のいずれについても、教員、生徒、保護者、校長及び市教育庁教授学・心理学事務所の話し合いが行なわれる。（2月1日迄に）
  8. ソグン高等学校訪問（「オープン・デイ」）。（1月）
  9. ノルトストランド、ランベルセテルその他の高等学校訪問。（2月、3月）
  10. 軍隊訪問？ 教育に対するどのような可能性があるか？（3月）
  11. ロードジベルは生徒の進学申請書の下書きを助ける。下書きの完了。（3月15日）
  12. ロードジベルは生徒とともに3月25日迄に高等学校進学申請書を書き上げる。
  13. ロードジベルは、奨学金・貸与奨学金について説明する。（5月、6月）
  14. ロードジベルは、全ての生徒が卒業証書とともに「フォロー・アップ・サービス」（“*Oppfølgingstjenesten*”）についての書類を書くことを確保する。

以上について若干補足説明をする。

まず、文書の標題にある「基礎学校」という語であるが、場合によって小学校と中学校をまとめて「基礎学校」（*grunnskole*）という言い方がされている。また、小学校と中学校の両課程を有する学校が相当比で存在する。

次に、上記「1」に関して、ヨースンドさんは私たちが訪問したこの日、9月4日、父母への説明会を行なったところであったという。

また、「学級ティーム主任」というのは、当ロフスルード校でも、先のホルムリア校でも、例えば、同一学年の学級A、B、Cの学級を一つのティーム、D、E、Fをもう一つのティームというように、同一学年に複数のティームを作っている。日本の学年主任よりももう少し小さい単位で置かれていることになる。

「6」の説明会では、13の基礎コースの代表が各コースの内容を説明するという。ここに挙げられている高等学校は、ソグン校は職業科だけ、ノルトストランド校とウルスルド校は普通科、ランベルセテル校とマングレルド校は普通科と職業科を有する。ソグン高校だけはこの中学校から約24km離れているが、その他の学校はいずれもロフスルード校に最近接の高等学校である。

「14」の「フォロー・アップ・サービス」（“*Oppfølgingstjenesten*”）というのは、

94年教育改革で導入された制度であり、高校中退・不登校などで学校制度から外れてしまった若者を指導をする制度である<sup>9)</sup>。

### （5） 学校の予算・施設設備

この学校の予算の支出は、97年度で年間1570万ノルウェー・クローネである。当時のレート（1ノルウェー・クローネ(NOK)は約16.8円）で計算すると約2520万円である。この中には教職員給与1450万NOKが含まれている。学校予算は校長が行政機関と相談して作成し、最後に調整委員会に諮って決定するという。学校が定めるのは管理運営費のみであり、建設費等は別である。

同校には、6棟の校舎とその間の広場を蔽う、開閉装置のついた大きなガラス屋根があり暖かい。しかし、暖房にも開閉にも経費がかかる。1988年に建設したこの学校の建設費は8800万NOKであった。校舎は2階建てで障害者のためにエレベーターが設置されている。

この学校は、18学級用に建てられており、今は19学級となっているので少し狭い。特別の教室としては、実験室1、調理室1、美術・工芸室4、情報処理室大小各1、音楽室1、図書室1などがある。2つの教室毎に入口が一つ、トイレが一つ作られており便利になっている。しかし、この学校には小人数教室（7人くらいまで用）がないので発音教室、歯科医の事務所、心理学担当者の相談室、会議室などを相談し合って小人数用教育と共用している。体育館は仮設で2つあって、校舎から離れている。歯科医は近隣の学校と合わせて学校歯科医が配置されており、その事務室がこの学校にある。小人数教室不足の問題は近くにもう一つ中学校を建設中でそれで解決することになっている。職員室の感じは多くの日本の中学校の職員室に似ていたが、それとは別に快適でゆったりとした感じの教職員が休憩したり食事をする部屋が別にあった（これはホルムリア校にも、見学した他のどの小学校、高等学校にもあった）。

### （6） 授業など

授業見学は、まず、シルベー・キスケドゴールさんのノルウェー語の授業と英語の授業を見学した。彼女は、ノルウェー語、英語、フランス語、ドイツ語を教えているという。ノルウェー語の授業では視力の悪い女生徒が1人おり、教室にその生徒用のカメラ、モニター、パソコンが設置されていた。キスケドゴールさんによると、外国出身の生徒もいるがノルウェー語の遅れている生徒は2人であるという。見学した第10学年のノルウェー語の授業は、文学史の自然主義の勉強であり、この日に見学した授業の内容は生徒が自分で調べた内容を発表する授業であった。時間の都合上、見学はしなかったが、演劇のような形で行なうことや「ラップ」の調子で歌うこと予定しているということであった。

見学した10年生の英語の授業は、通常は30人で行なっているが、この日の授業は2つに分けており15人で行なわれていた。黒板には英語で次の課題が書かれていた。

- ①Read the text Asking Out
- ②Check the story
- ③Close your books
- ④Tell the story by the help of the pictures

生徒は英語とノルウェー語の対応ノートを作っていた。

もう一つ、副校長の案内で別の第10学年ノルウェー語文法の授業の「とび入り」見学をした。母親が日本人の女子生徒もいた。授業終了後の担当教員の話では、中学生は反抗期で親や学校に反抗的な行動も見られる、この学校ではそれほど大きな問題はない。彼がいま教えている学級もそれほど問題はないが、中学校修了時に試験があり、進学ではその成績が問題になる、それで生徒は緊張している。ノルウェー語には、オスロの方言に近いボックモールと西ノルウェーの方言に近いニーノルスクがあり、義務教育ではどちらも書けるようにならなければならないが、ニーノルスクの学習に反抗的な生徒がいるという。

なお、一例として第9学年B組の時間割を挙げると、次の表IIのとおりである。

表II ロフスルード中学校第9学年B組の時間割（1997/98年度）

9 B	月	火	水	木	金
8:15	選択教科	体育		ROK	
9:05	選択教科	体育	ROK	ROK	(不明)
10:00	学級会	ROK	ROK	ROK	選択教科
10:55	木工	ROK	ROK	ノルウェー語	選択教科
12:10	芸術	ROK	ノルウェー語	社会科	理科 音楽
13:05	体育	理科	生活指導 ・キリスト教	理科 音楽	社会科
14:00	選択教科	社会科		選択教科	生活指導 ・キリスト教
14:45	選択教科				

注 ①表中のROKはrokeringsmodell（英語：castling model）。本文及びホルムリア中学校の記述および注8）参照のこと。この学級の生徒は3つに分かれてそれぞれ他学級の生徒とグループを形成する。

②選択教科としては、オスロ市教育部は、1）ドイツ語、フランス語又はフィンランド語、2）上級のドイツ語、フランス語又はフィンランド語、3）実践的プロジェクト学習を挙げているが、当校で何を置いているかは未確認。

## （7） 父母評議会の活動

父母評議会については、父母評議会の代表であり、その資格で学校の調整委員会の委員にもなっているトーレ・レーニン（Tore Rønning）さんから話を聞くことができた。

父母評議会の構成等は、概ね、本稿(一)の(3)に記述のとおりであった。付け加えれば、進学年が始まったとき各学級で2人親の代表を選び、そのうちの1人が全校の父母評議会運営委員会の委員になる、したがってこの学校の委員会は19名で構成されている。この委員会の議事録は毎回出している。父母評議会は、年に3回、学校が召集する。父母評議会運営委員会は毎月第1火曜日、夕方に2時間くらい開催している。委員会の義務としてその決定を文書や電話で各親に伝えている。それ以外にも特別の会議をしたり親と連絡を取り合ったりしている。この学校の父母評議会ないしその運営委員会の活動内容については次のように説明された。

父母評議会では、①放課後、子どもが望ましくないことを防ぐ対策、②教育に関する政治・政策の学習・検討、③体育館の設置推進の3つの課題にとり組んでいる。

道を調べて交通事故対策を考えた。

5月17日の憲法記念日には学校に生徒を集めて朝食を振る舞いそれからパレードに参加させた。

地域に13歳～22歳の青年が参加する青年クラブがある。その活動は、毎週金曜日の夜7時～11時に行なわれている。100人～200人くらいの若者が集まる。ディスコやビリヤード、映画、本の朗読などを行なっている。オスロ市の職員とそのほかに4、5人が指導に当たっている。禁酒や建物の中での禁煙、宿泊には親の許可を必要とするなどのきまりがある。地元の若者というよりは外部からの若者が邪魔をすることがあったりして、時に喧嘩などがあるのでそれを防ぐために親が当番で携帯電話を持って見守りに歩き、必要な場合は警察やコミュニンの青年担当と連絡をとったりしている。親は、9時～12時30分、当番で見守る。

スポーツについては、地域のスポーツ・クラブがこの青年クラブとはまた別にある。ロフスルード中学校の生徒もアイスホッケー、ハンドボール、サッカーのクラブを作っていて参加している。

教育政治・政策に関しては、97年改革を検討して学習指導要領が変わり、親の機関の権限が拡大したことが判ったので、それに関する意見を出した。

教育改革の結果、親の発意で文化祭ができることがわかったので、職員と協力して97年4月17日（木曜日）の午後、12の文化圏にまとめて、出店、料理、音楽、展示などで、それぞれの出身国・地域の文化を紹介する文化祭をやった。およそ1000人が集まり大成功だった（掲示場にこのときの写真がパネルにして飾ってあった。）

政治家に働きかけて、通学に必要なバスの本数を増やしてもらった。

父母評議会として特に力を入れてきたのは、体育館の設置である。法では設置が義務づけられており、10年間働きかけてきたのにできていなかった。それで、父母評議会は怒って生徒のストライキをおこなった。始めは、1カ月毎に1日、生徒を休ませた。これには

99%の親が賛成した。それでも体育館設置を約束しなかったので2カ月毎に1週間休ませるという方針を取った。2回目も実行したら、2回目にオスロ市教育部から手紙がきて、山の中に体育館を作ることが決まるとともに、500万NOKで仮設の体育館を作ってもらった。山の中の本式の体育館は、以前にあった山の中にあった体育館を改造してあと14日で完成する。これは他校と共用する。

なお、校長は、このような「ストライキ」というようなことは非常に例外的ではあると付け加えた。校長は、雇用者側・行政側であるので抑制する立場で振る舞ったが、親には「ストライキ」をしても害の少ない日を選ぶよう勧めたという。

### まとめに代えて

①上述した学校がノルウェーの平均的な学校ではないが、外国からの子どもたちを多数受け入れ、しかも見られる限り和やかに教育が行なわれていたのは、心暖まる気がした。

②生徒数・学級数に対する教職員は、多数の外国からの生徒数を考慮しても、わが国よりもはるかに多く配置されていると言えよう<sup>10)</sup>。また、教室などの施設も豊かと思われた。

③教授・指導方法では「キャスリング・モデル」の学習グループ編成やプロジェクト法など大胆な工夫・試みが行なわれているようである。その意義や学習・教育の内容・水準、進路指導の実態等は今後調査研究してゆきたい。

④生徒や親の学校・教員に対する要求や不満とそれへの対処はよく判らなかったが、限られた見聞による限り父母評議会の位置づけや学校のそれへの対応は、開放的に思われた。

⑤中学校の生徒会が学外の青年協議会に参加していることやその活動内容、生徒会委員の態度などからは、市の教育部や学校が青少年の自治的能力を相応に認め、かつそれを育成しようとしていることが感じとられた。

⑥遠方の外国のしかも言葉も通じず始めて訪ねた一介の大学教員あるいは短期大学教員である私たちの限られた時間内での訪問に対して、十分な見学の機会と豊富な資料の提供、心のこもった応接をしていただいたことは、ノルウェーの教育研究の初心者である私にとって最大の喜びであり励ましであった。

## 北川 邦一：ノルウェーの学校教育（その2）

## 注

- 1) 本稿の記述における学校・教育行政機関訪問は、1997年9月1日（月）関西空港発フィンランド経由、同月13日関西空港帰着の日程で、京都府立大学教授宮嶋邦明氏とともに行なったスウェーデン、ノルウェーの教育見学・調査旅行の一環である。本誌前号第17号（97年12月発行）では、この旅行を踏まえて「スウェーデンの高等学校」を発表した。
- これらの研究は、拙稿「子どもの権利条約と諸国の先進的動向・制度——フィンランド、フランス、ドイツの例を参考に——」（望月彰・土屋基規編著『いのちの重みを受けとめて』（神戸新聞総合出版センター・1997年、所収）とともに、子どもの権利・福祉・環境重視の北欧諸国の教育への関心に基づくものである。
- 2) 英語では“*the Act Relating to Education and Training*”を当てている。  
OSLO KOMMUNE Skolesjefen(オスロ市教育長), *Starting School*, Oslo: 1997. p.2.
- なお、以下、ノルウェーの学校、行政機関作成の英文資料による場合で、ノルウェー語を確認できていない語は、さしあたり英語で示しておく。
- 3) 以下、注4) 添付箇所までは、下記による。  
The Norwegian Ministry of Education, Research and Church Affaires, *Reform 97 The Compulsory School Reform*, Oslo: 1996. p.3, p.9.
- 4) この段落は、*Starting School*, p.16. による。
- 5) *Reform 97*, p.9
- 6) *Starting School*, p.17.
- 7) *Starting School*, p.9.
- 8) 当地の学校の英訳文書では“*castling model*”の語が当てられており、“*castling*”は、チェスにおける用語で次のように説明されているので、本稿ではそのニュアンスを生かして「キャスリング・モデル」の語を当てることにした。  
「*castling* 《チェス》キャスリング、王(king)の入場（王と左右のルーク(rook)の間の駒が出払ってしまい、しかも王とルークが一度も動いていない時、ルークを王の隣に動かすのを一手で行なう方法；ただし、checkがかけられているときは行なうことはできない。」（研究社『新英和大辞典』第5版、1980年）
- 9) 拙稿・本誌第16号「ノルウェーの学校教育」、参照。
- 10) この点に関して、表Ⅲの大阪府の教職員定員基準表及び次の大阪府羽曳野市立高鷲中学校の実例と、本稿で述べたノルウェーの小、中学校の生徒数・教員数とを比較されたい。

## 1997年度 大阪府羽曳野市立高鷲中学校

生徒数 468名

学級数 14学級(通常学級12、障害児学級2)

教職員総数 33名(校長・教員29、他4)

内訳 校長1、教諭25(12学級定数20、障害児学級担当2、進路加配1、ティームティーチング加配1、生活指導1)、講師2、養護教諭1、事務職員2(府定数1、市単費負担1)、作業員2。

—1998年9月28日—

## 大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第18号（1998年）

表Ⅲ 1998年度 小・中学校学級規模別教職員定員配分基準表（大阪府教育委員会）

学校規模 (学級数)	小 学 校				中 学 校			
	校長・教員	養護	事務	計	校長・教員	養護	事務	計
1	4	1	1	6	5	1	1	7
2	5	1	1	7	7	1	1	9
3	6	1	1	8	9	1	1	11
4	7	1	1	9	10	1	1	12
5	8	1	1	10	11	1	1	13
6	10	1	1	12	13	1	1	15
7	11	1	1	13	14	1	1	16
8	12	1	1	14	15	1	1	17
9	13	1	1	15	17	1	1	19
10	14	1	1	16	18	1	1	20
11	15	1	1	17	19	1	1	21
12	16	1	1	18	21	1	1	23
13	17	1	1	19	22	1	1	24
14	18	1	1	20	23	1	1	25
15	19	1	1	21	25	1	1	27
16	20	1	1	22	26	1	1	28
17	21	1	1	23	28	1	1	30
18	22	1	1	24	29	1	1	31
19	24	1	1	26	31	1	1	33
20	25	1	1	27	32	1	1	34
21	26	1	1	28	34	1	2	37
22	27	1	1	29	36	1	2	39
23	28	1	1	30	37	1	2	40
24	29	1	1	31	38	1	2	41
25	30	1	1	32	40	1	2	43
26	31	1	1	33	41	1	2	44
27	32	1	2	35	43	1	2	46
28	33	1	2	35	44	1	2	47
29	34	1	2	37	46	1	2	49
30	35	2	2	39	47	2	2	51
31	36	2	2	40	49	2	2	53
32	37	2	2	41	50	2	2	54
33	38	2	2	42	52	2	2	56
34	39	2	2	43	53	2	2	57
35	40	2	2	44	55	2	2	59
36	42	2	2	46	56	2	2	60
37	43	2	2	47	57	2	2	61
38	44	2	2	48	58	2	2	62
39	45	2	2	49	59	2	2	63
40	46	2	2	50	61	2	2	65

\*なお、21学級以上の小・中学校に1名の大規模校加配。30学級以上の小学校に1名、30学級以上の中学校に複数の生徒指導主事が配置されます。

\*ただし、大規模校加配は、大阪市を除きます。